

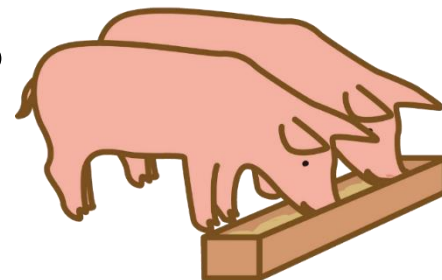
登録飼養衛生管理者による 豚熱ワクチン接種のための 研修（接種技術）

豚熱ワクチンの接種方法について学び、適切な接種技術を習得するとともに、接種事故の未然防止に必要な知識を習得する

豚熱ワクチン接種の方法


①豚熱ワクチンの接種時の具体的手技・ 注意点

適切に免疫を付与するためには、豚が健康であること、そして丁寧かつ適切なワクチン接種技術が不可欠！




接種対象豚等の確認（接種前）

● 接種日齢、接種頭数を確認しましょう

 豚熱ワクチン接種票の指示内容を確認し、接種対象豚群の接種日齢、接種頭数を確認する。


● 豚の健康状態を確認しましょう

 他の病気に罹患している場合には、適切に免疫が付与されないおそれがある。

 異状を認めた場合は、管轄の家保及び知事認定獣医師に速やかに連絡する。

豚熱ワクチンの準備①

● 外観又は内容に異常があるワクチンは使用しない

 使用期限が過ぎたもの、**使い残りのワクチンは使用しないこと**
(雑菌の混入や効力低下の可能性)。



豚熱ワクチンの準備②

- 乾燥ワクチンのキャップの取り外し・溶解は使用直前に行い、**溶解後速やかに使用する。**

- 接種予定頭数に応じた必要本数を溶解するようにし、不足分は都度、溶解する。

 溶解後余ったワクチンは返却する

- ワクチンはよく**混ぜてから吸入**する。

 泡立たせないように注意

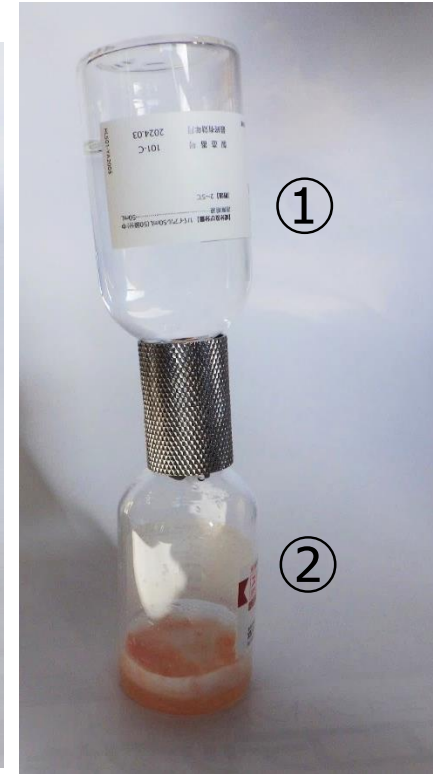
- 他のワクチンを加えて使用しないこと。

豚熱ワクチンの準備③

使用直前に①②のキャップを外す

①にクイッカーを刺しこむ

①を逆さにして
②にクイッカーを刺しこむ



①が空になるまで待つ

ワクチン接種方法①

● **注射の方法**：筋肉内注射、皮下注射※ （※筋肉内注射が基本）

● **接種部位**：

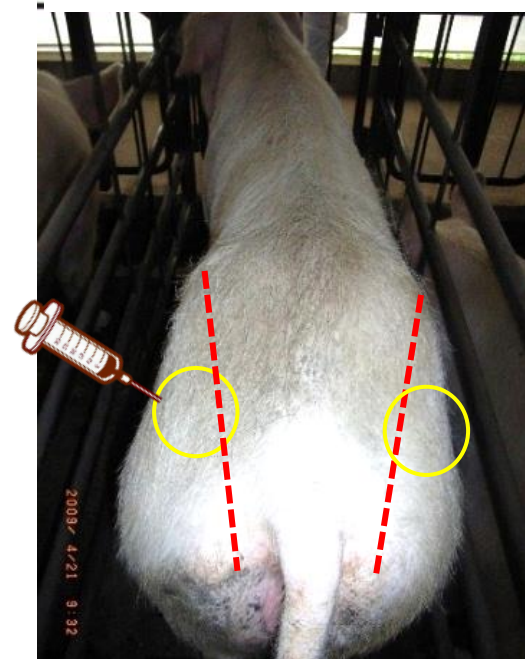
→ **子豚**：耳根部後方の頸側部（耳の後ろの筋肉）

→ **母豚や雄豚**：臀部（尾根部と腰角を結んだ線の下側の部位）

<子豚の接種部位>



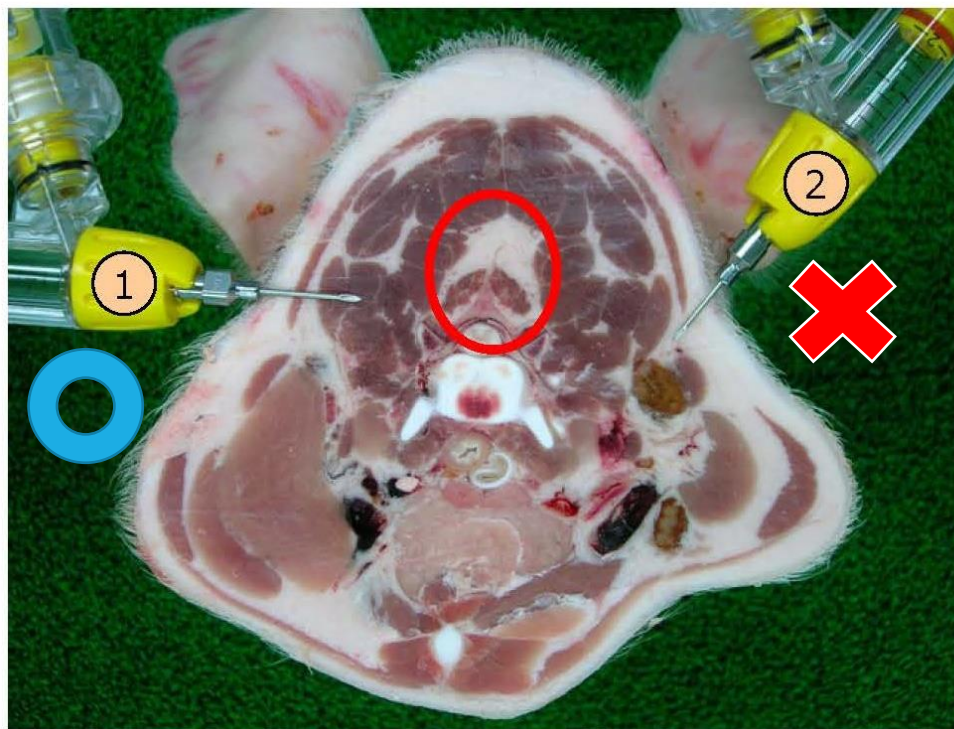
<母豚の接種部位>



ワクチン接種方法②

メモ 筋肉内注射は、**皮膚に対して直角**に行う。

※斜めに注射すると、筋肉の奥ではなく、皮膚の下の脂肪に薬剤が入る可能性がある（脂肪の中に接種すると注射痕がしやすい）。
また、肩の骨に当たって折れたり、頸静脈に当たって小さい豚だと死んでしまうこともあるので注意。






○ 耳根部（耳の付け根の後ろ約20-75mm）に投与。

○ 体軸に垂直となるように投与する（左図①）。

✗ 斜め上方から投与すると、脂肪層に投与される危険あり（左図②）。

✗ ①の場合でも、注射針が長すぎると脂肪層（赤丸部分）へ投与される危険あり。

ワクチン接種方法③

-  **メモ** **ハム（太もも）やロース（腰）への注射は避ける。**
筋肉に出血やあざができ、その後、傷跡が残る場合がある。
-  **メモ** 母豚や雄豚の接種部位は70%アルコール綿で消毒する。
-  **メモ** 明らかに濡れたり汚れたりしている皮膚への注射は避ける。

注射針の取扱い上の注意点①

● 注射針の取扱い



適切なサイズと長さの針を使用し、薬が他の組織ではなく、**筋肉**に確実に入るようにする。

※各発育ステージ、体重によって異なることに注意。以下の表を目安に。

体重	筋肉内注射	
	針の太さ (G)	針の長さ (mm)
5 kg以上	22 - 23 G	10 - 12 mm
10 ~ 20 kg	21 - 22 G	12 - 18 mm (1/2 - 3/4インチ)
20 ~ 60 kg	19 G	16 - 25 mm (3/4 - 1インチ)
60 ~ 100 kg	18 G	25 - 32 mm (1 - 1・1/4インチ)
100 kg以上	16 G	38 - 44 mm (1・1/2 - 1・3/4インチ)

注射針の取扱い上の注意点②

● 注射針の取扱い

メモ 針は豚房ごと（母豚の場合は1頭ごと）又はワクチン瓶ごとに交換する必要。針の交換は決して豚房内やスノコの上で行わない。


メモ 注射中に針が曲がった場合は直ちに未使用の針に交換すること。注射をするたびに、針が破損していないか、破損している場合は床に針先が落ちていないか必ず確認すること。
(針が頻繁に折れるということは、何かが間違っている可能性)



写真：一般社団法人
日本養豚開業獣医師協
会提供

注射針の取扱い上の注意点③

● 注射針の取扱い

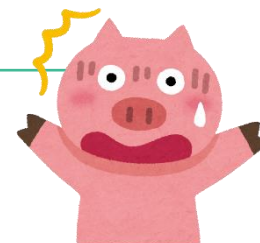
 使用済みの注射針は専用の容器（タッパー等）に入れ、**紛失防止**に努めること。

 注射針は、以下を把握し適切に管理すること。

- ☆ 接種時に**持ち出した本数**
- ☆ **使用本数**
- ☆ **未使用本数**



注射針が折れてしまった場合は、**豚肉への針の残留に注意**する必要があります。
必要に応じてと場に連絡しましょう。
接種前後で注射針の数が同じであることを確認しましょう。



注射器の取扱い上の注意点①

● 注射器等の取扱い

メモ 再使用可能な注射器・注射針は、分解の上、お湯で洗い、煮沸等により消毒（30分以上、95℃以上のお湯の中に漬ける等）又は滅菌されたものを使用すること。内筒のパッキンの汚れに注意。石鹼やその他の消毒剤は、注射筒の内側には使用しないこと。

<電気ポットを用いた消毒>



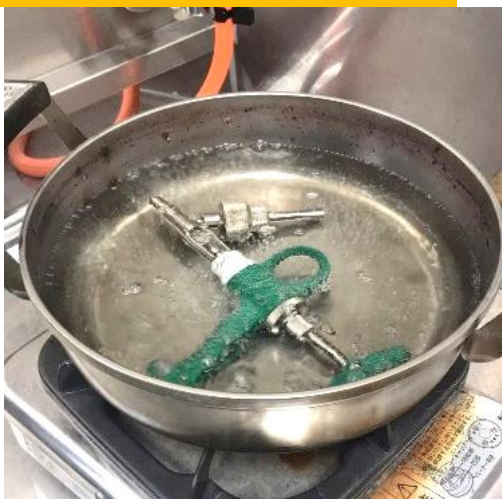
写真：一般社団法人 日本養豚開業獣医師協会提供

2020/05/20

2020/05/20

注射器の取扱い上の注意点①

＜鍋を用いた消毒＞



＜殺菌消毒装置を用いた消毒＞



注射器の取扱い上の注意点②

● 注射器の取扱い

メモ ディスポーザブルの注射筒は、使用後すぐに適切に廃棄すること。

メモ 連続注射器を使用する場合は、薬液が適切に吸引できているかを必ず1頭ごとに確認すること。

(空気を吸引してしまっている場合があるので注意。ワクチン瓶の装着部分に隙間がないか等、空気が入る要因を改善する必要がある。)




<注射器内に空気が入ってしまっている例>



写真：一般社団法人
日本養豚開業獣医師
協会提供

その他の注意点

● 接種時のその他の注意

-  **メモ** レバーを押しながら豚に針を刺さないこと（薬液が漏れる）。必ず注射針が刺さってからレバーを押すこと。
-  **メモ** 接種後、レバーを押したまま針を抜き、確実に薬液が体内に入ったことを確認すること。
-  **メモ** 連続注射器の場合、1頭ごとにワクチン瓶を立ててゆっくりとハンドルを戻し、薬液が内筒の中に適量入っているかを確認すること。
(特にワクチン瓶の中の薬液残量が少なくなった時に注意)

その他の注意点

<ワクチン瓶交換タイミング例>



泡だっている



薬液が少ない

ワクチン接種

母豚



子豚



ワクチン接種

肥育豚



(参考) 豚用ワクチン
投与動画
(明治アニマルヘルス
株式会社HPより)



接種対象豚等の確認（接種後）

- 接種済みの豚に、スプレー等でマーキングをしましょう。



- ・ 接種後は、直ちにスプレー等でマーキングをする。
- ・ 接種済みの豚を**接種区域外のと畜場へ移動する際は**、接種豚の背中に英字の「V」を赤又はピンクのマーカー（スプレー）等で記す。（令和6年3月の防疫指針改正により変更）

- 豚熱ワクチン接種後は、記録をしましょう。



- ・ 使用したワクチン容器の数を照らし合わせ、接種漏れを確認する。

- 接種時に用いた資材は、適切に処理しましょう。

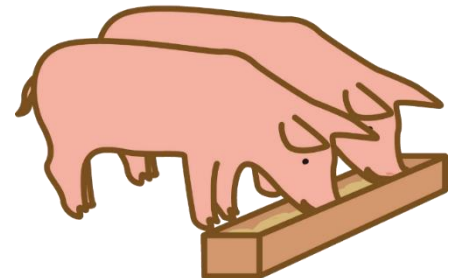


- ・ 資材は、消毒又は焼却により適切に処理をする。
（※**ワクチン瓶は全て家保へ返却する。**）

豚熱ワクチン接種の方法

②豚熱ワクチンの接種事故の未然防止・発生時の対処方法

適切に免疫を付与するためには、豚が健康であること、そして丁寧かつ適切なワクチン接種技術が不可欠！



発生しうる接種事故の例

1. 注射針が接種者等に刺さってしまった。
2. 接種時に豚等が暴れてしまい、接種者がケガを負ってしまった。



- 応急処置**をとるとともに
医師の診察を受けましょう。
- 保定や接種技術**を見直し、**再発防止**に努めましょう。

<適切な保定の例>



発生しうる接種事故の例

3. 接種部位が悪く、豚が死亡してしまった。
4. 接種部位が悪く、肉が廃棄になってしまった。
5. 注射針を交換あるいは消毒すべきところ、実施していなかった。



- **作業手順書を再確認**しましょう
- 本研修で学んだ**接種時の注意事項を確実に遵守**しましょう



発生しうる接種事故の例

6. 不適切な保管をされていた豚熱ワクチンを使用した。
7. 豚熱ワクチン接種票の指示に基づかない接種を行ってしまった。
(不適切な接種日齢、接種対象、投与量、投与方法等)



- **管轄の家保に連絡**しましょう
- **接種台帳及び接種実績に事故の内容を記入**しましょう
- **豚熱ワクチン接種票等の指示に従い**ましょう

豚熱ワクチンに係る事案

<事案1>

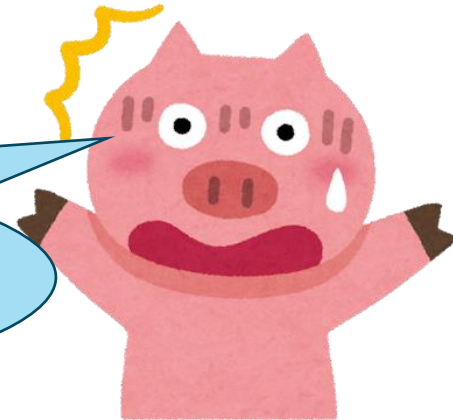
溶解済みのワクチンが接種後も余っていたため、冷蔵保管し、**1週間後に別の豚に接種**した。

実際の対応

本ワクチンは開封、溶解後は時間経過とともに効力がなくなることを説明、追加でワクチンの受渡を行い、一週間後に接種した豚に改めて接種するよう指導。

* このような事例では、再度、交付手数料を徴収することになります！

ワクチンは溶解後、速やかに接種しましょう！雑菌が混入したり、効力が低下したりする可能性があります！



豚熱ワクチンに係る事案

<事案2>

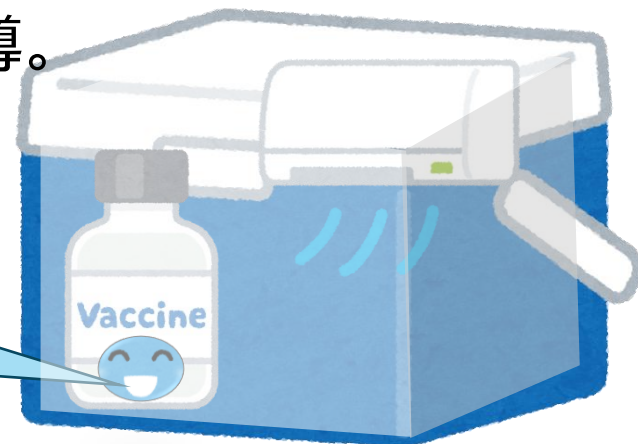
溶解済みのワクチンを冷蔵保存せずに、**常温で農場内を持ち歩き**、接種を行った。

実際の対応

ワクチンは開封、溶解後は冷蔵（2～8℃）保存が基本です。夏季に常温で溶解後のワクチンを持ち歩く場合、ワクチンの力価が急速に低下する可能性があります。

接種直前に溶解するとともに、保冷剤とともにクーラーボックス等に保管して持ち歩くよう指導。

涼しくて快適です！



豚熱ワクチンに係る事案

<事例3>

50ドーズ1本分のワクチンを溶解せず、**溶解液のみ接種を行ってしまった**。溶解液のみを接種した個体が不明。

実際の対応

- ①当日接種したロット全頭に再接種
- ②接種票の出し直しは求めない
(延べ頭数は変わるが、実頭数は変わらないため)
- ③ワクチン受渡し申請書は理由を記載し、再提出
(実績報告書と接種票の頭数が合わなくなるため)
- ④ワクチン代金は再接種分も請求

ワクチン接種が流れ作業にならないよう、
作業手順書に従い実施しましょう！



豚熱ワクチンに係る事案

<事案4>

突然、家保に来所してワクチンを**当日受け取れないか**聞いてくる例があった。

実際の対応

豚熱ワクチンは、通常流通しているワクチン（日本脳炎、サーコ等）と異なり、ワクチンを受け取るためには、事前に熊本県に接種月毎の接種計画書（家保が接種票を交付する場合は豚熱ワクチン接種票交付申請書も必要）及び受渡申請書の提出が必要であること説明。その場で必要書類に記入してもらい、ワクチンの受け渡しは後日行った。

今日の研修を機に、必要な手続きについて改めて確認してみてください！



豚熱ワクチンに係る事案

<事案5>

接種票では子豚のみの指示なのに、母豚も接種した。
接種票で指示が出ている頭数の2倍もの頭数を接種した。

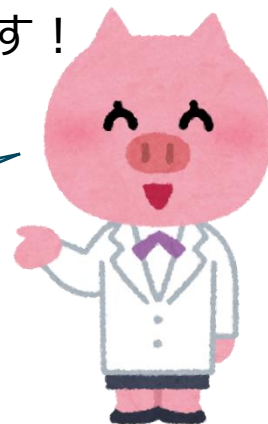
実際の対応

ワクチンが余っていても、接種票で指示された個体以外に勝手に打つことはできません。

月の途中で新たに接種したい豚がいる場合は、追加で「計画書」「接種票」「受渡申請書」が必要となります。

* このような事例では、再度、交付手数料を徴収することになります！

上記のような接種計画の変更の際には
お早めにご相談ください！



豚熱ワクチンに係る事案

<事案6>

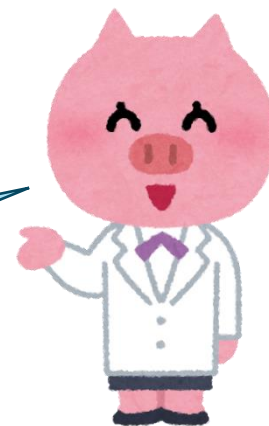
育成豚への補強接種を忘れていたため、半年後の接種をしていなかった。

実際の対応

発覚後すぐに補強接種を行った。

育成豚については、初回接種日を確認し、必ず半年後（初回分娩前）に補強接種（2回目の接種）を行ってください。

育成豚の選抜時に、ワクチン接種日の再確認をお願いします。



豚熱ワクチンに係る事案

<事案7>


接種実績報告書の提出が遅れた。

実際の対応

報告書の提出期限を遵守をお願いします。

(翌月の5営業日まで)

豚熱ワクチンは厳格な管理が必要とされており、使用した本数等は国へ報告しています。



皆様のご協力を
よろしくお願いいたします。